

月曜評論

★ 今日の世界は、まさに「イメ
ジ」の政治におおむね振りまわ
れた。先の大統領選挙も、先の大
米ソ首脳会議の印象も強烈であ
ったが、わが国の田中首相も今
月末から十月初旬にかけて、
米、欧(英、仏、西独)ソの五
方首脳と会談するために外遊
することが決まった。昨年九月
の日中国交のための訪中を特例
とすれば、田中政権にとって初
めての首脳外交であり、しかも
相手はいずれも世界の大国首脳
ばかりである。わが国の首相
が、こうした大国の首脳と膝
を並べ、(C)を交えて堂々と話し合
うという自体は、大変好ま
しいことであり、国民の期待も
大きいと思われるが、しかし一
方、このまな大国の首脳を相
手にして田中首相がはたしてど
れほどの外交的手腕を發揮でき
るだろうか、という不安がある
ことも否めない。それに、過般
の都議選では自民党の健闘が示
されたとはいえず、依然として弊
々な問題が山積している内政上
の困難がまた田中内閣への
厳しい評価を、一連の首脳外交
の展開によって、率に振返させ
ようとする意図がかりにあらた
にしている。今日のわが国を認
め(め)る国際環境は、そのよ
うな期待をたえずく充たしてい
けるほど甘いものではない。

首相外遊への期待と不安

★ まず、この七月三十一日と八
月一日の日米首脳会談だが、前
提的には、ホワイトハウスがウ
ォーターゲート事件の渦中にお
り、また物価・賃金凍結期間中
であるばかりか、カンボジア問
題解決のメドをこの八月十五日
までに迫られていることを考え
ると、アメリカ側としては、日
本にたいして柔軟な対応がきわ
めてほしい時期にぶつかって
しまっている。ブレジネフ訪米
の場合は、このようなニクソン
の政權にとって逆にならざるを得
ないが、わが国の場合は、ま
た条件が異なるにいて、五
は、いまでもない。むしろ、五



中嶋 嶺雄

月のニクソン外交教書が、わが
国にたいして、経済、安全保障
(軍事)および伝統的外交の
三点からなる総合的な「ワンゲ
シ・ポリティクス」(連帯政策)
をきかたて示し、日本経済開
発の早急な改善とわが国の安全
保障面での寄与の増大を明ら
かに要求していた事実が、拡大
されて前面に押し出されている
可能性をいさよ河にしておおむ
ねのまじ。それだけに、わが国
政府・外務省は、日米首脳会談
の円滑な進展をはかる意味から
も、これら諸懸案を裏返しヘル
ドで奮め、日本側の主張も積極
的にぶつけようとする。本日から二日
間、東京で開かれる関係会議、
つまり日米貿易経済合同委員会
を予定し、その場をむしろ実質
的な日米交渉の舞台と考えて多
くを期待していたのだが、実際
には、シムル財務長官とスタ
イン大統領領事諮問委員長、そ
れにパット農務長官という三將

★ 田中内閣にと
いて、米、ソ両大国を含む首脳と
の頂上会談は、かなり以前から構
想されていたものであり、具体
的には去る三月下旬、米、ソ双
方から招請が寄せられた時点か
ら固められたのであって、けっ
して泥濘的な構想ではなかつた
ことも事実である。しかし、現時点
で考えるに、今回の首脳会談
は、まず第一に、沖縄返還交渉
のための日米会談、日ソ国交交
渉のための日ソ会談などのよう
な過去の有意義な歴史的な首脳会
談とは異なり、明白に緊要な懸
案が具体的に意図されている。

に有利であることが明らかなら
案をぶつけるには、最近の米ソ
両国の国内事情と国際関係の展
開に照らして、現在、現在、現在
を待たない。したがって、今回
の首脳会談の背景には、きわめて
厳しいものがある。これを十分に
認識し、覚悟して、必要がある
に有利であることが明らかなら
案をぶつけるには、最近の米ソ
両国の国内事情と国際関係の展
開に照らして、現在、現在、現在
を待たない。したがって、今回
の首脳会談の背景には、きわめて
厳しいものがある。これを十分に
認識し、覚悟して、必要がある

の大物閣僚三人の訪日、アメリカ側が急遽とやめにならな... (東大助教)